

教諭班グループ別研修

研究テーマ『「幼児期に育てたい力」を育む環境や援助の工夫 ～遊びの中にある資質・能力を読み取って～』

教諭班は、持ち寄った資料や保育の情報交換を行い、各々の自己課題から次回の協議内容を検討した。今年度は研修を深めることができるよう各グループに主任を配置し、協議の方向性を示したり、アドバイスをしたりする立場で参加する。助言の園長からは、子供の育ちを理解し、教師の資質向上につながる具体的な保育についての御指導をいただき、研修を深めることができた。

< 3歳児 >

- ・発達段階に応じた環境構成について、設定の仕方や数量など保育実践につながる具体的な情報交換ができた。
- ・支援が必要な子や、外国籍の子への対応、少人数保育の進め方など、各園の悩みや困り感を出し合い、具体的な援助や職員間の連携など解決につながる話し合いができた。

～助言者御指導（抜粋）～

- ・教師が子供に共感し受け止めることで、気持ちが安定し信頼関係が深まる。信頼関係が築かれた子供たちの心情は、主体的な活動をする上での基盤になる。
- ・保護者との面談時は、子供の育ちを伝えていくとよい。保護者の日ごろの育児を労ったり褒めたりすることも大切である。また、送迎時には、偏りなく平等に声を掛けていくことを心掛けたい。
- ・コミュニケーションを円滑にするには、「ほめる5S」を使いたい。「さすが。」「おしい。」「すばらしい。」「センスがある。」「そうくるか。」のさ行を使い、前向きな印象で話ができるとよい。公立幼稚園を選んだ保護者の期待に応えられるよう、日々の保育充実や丁寧な保護者対応をしてほしい。



< 4歳児 >

- ・学級の実態から課題を出し合い、年中の育ちについて確認したり、具体的な環境構成について話し合ったりした。
- ・教材研究では、子供たちの興味や実体験から題材を選ぶ大切さや、年中児の経験に効果的な用具や素材を伝え合うことで、保育のスキルを増やすことができた。

～助言者御指導（抜粋）～

- ・基本的な生活習慣が身に付き、自信をもって園生活を送ることができるようになるが、環境が変わったことで再確認が必要になる時期である。また、友達と一緒にいることを楽しむ半面、トラブルと仲直りを繰り返すため、教師の仲介役としての役割はとても大きい。
- ・4歳児の保育は『わくわくする気持ちを育てる』ことが大切である。その気持ちのもち方によっては失敗しても意欲的になれるが、逆に一度の失敗で諦めたり、気持ちが継続しにくかったりする姿にもなりうる。「やってみたい!」という気持ちを大切に、子供主体の活動になるよう、教師が援助していくことが必要である。
- ・子供の興味を探り、思いを汲み取りながら保育をしていく中で、教師の計画通りにいかない時には柔軟に対応し、再構成をすることが大切である。子供の興味を探るために自ら進んで職員に情報をもらい、チームで保育をしていくことが重要である。



<5歳児>

- ・各園の製作や描画の実践を伝え合う中で、子供の実態やこれまでの経験を踏まえ、用具や技法を選び、題材を考えていくことが大切であることを確認した。
- ・少人数園では、教師がすぐに声を掛けず介入し過ぎないなどの援助や、年長児として考えたり試したりできるよう、意図的に年長児だけで遊ぶ時間を設ける必要性について話し合った。

<複式学級>

- ・複式ならではの製作遊びや環境構成について情報交換ができた。今後は異年齢での行事の在り方や友達との関わり方について情報交換し、話し合いを深めていきたい。



～助言者御指導（抜粋）～

- ・2022年度から、幼保小の架け橋プログラムの推進が始まり、幼小のつながりをより意識した実践に取り組んでいるのではないかと思います。幼稚園では「幼児期の終わりまでに育てたい力(10の姿)」に照らし合わせて子供の姿を捉え、保育の充実を図り、小学校につなげていくことが大切である。
- ・接続期は、①小学校になると言葉や文章などで表出されたものから子供理解をしていくことが多くなるため、子供自身や子供同士の言語化を支えていくこと ②子供が困っている場面では自力で解決できるように優しい視線で向き合い、共感する姿を見せていくこと ③子供が夢中になれる遊びの環境や素材を見直しをしていくこと の3つの援助が大切である。
- ・小学校では時間で区切られた生活になるため、切り替えの力が必要になる。その分、幼稚園のうちは、「次は〇〇したい。」という思いや熱中していることはできるだけ叶えてあげてほしい。

<預かり保育グループ>

- ・担任に学級での様子を聞いたり、クラス活動との兼ね合いを考慮したりして、教材の準備をしたり、活動を考えたりしている。
- ・預かり保育での活動内容や日々の保育との関わり工夫につなげていくために、時には保育に入り、学級での様子を知る必要がある。



～助言者御指導（抜粋）～

- ・預かり保育の時間が子供たちにとって安心して過ごすことができる時間となるよう環境づくりを行うと共に、一日の流れを考えながら保育を進めてほしい。また担任と連携を図り、けがや気になった姿などの情報共有をしておくことが大切である。ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）を大切にしてほしい。
- ・家庭との緊密な連携を図るためには、毎日の様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしてコミュニケーションを積み重ねていくことが大切である。
- ・預かり保育での異年齢児との関わり経験が、新たな気づきや刺激を受け、学級での活動につながっていくことがある。学級では見せないような姿を見つけた時は、担任や保護者とその姿を共有し、一人一人に合った援助へつなげていきたい。